

平成29年度 学校評価報告書

神津島村立神津中学校長
富田 聖和

1 自己評価

(1) 自己評価の各項目に対する評価結果及び成果と課題 (数値) 上段: 29年度 下段: 28年度

	経営目標	評価結果 4段階		成果と課題	
		第1回	第2回		
1	人権教育	2.6	2.9	成果	学校行事等で協力する姿勢や相手を思う姿が見られる。
		2.4	2.7	課題	相手を傷つける言葉が多い。
2	連携教育	1.8	2.2	成果	公開授業や行事を参観し、入学生の様子がわかった。
		1.2	1.5	課題	小学校、高校との連携がスムーズにできない。
3	特別支援教育	2.5	2.5	成果	教材の工夫をし、分かりやすい授業を実践できた。
		2.9	3.1	課題	特別支援教育の指導方法が具体的に示されていない。
4	学力向上	2.6	2.8	成果	学習会や弁論、英会話講座等により基礎や表現力が身に付いてきている。
		2.3	2.8	課題	全生徒に基礎・基本の定着、表現力を身に付けさせる。
5	心の教育	2.4	2.6	成果	挨拶ができるようになり、相手を思う気持ちが身に付いている。
		2.3	2.5	課題	自尊感情が低い生徒が多い。
6	オリパラ教育 (体力向上)	2.0	2.6	成果	オリパラ週間でオリンピック・パラリンピックの関心を高めた。
		2.3	2.7	課題	各授業内でのオリパラ教育の実践をする。
7	進路の実現	2.0	2.3	成果	地域の方や卒業生との授業ができ具体的な進路を考えられた。
		1.9	1.7	課題	様々な職業の方との交流ができる進路指導の実現をする。

(2) 自己評価結果の成果と課題に対する改善策

	経営目標	改善策
1	人権教育	教師も率先して言葉遣いを丁寧にし、子供の手本となり、丁寧な言葉で話す習慣をつける。
2	連携教育	小学校、中学校、高校で、担当となるコーディネータが連絡会をもち話し合う。
3	特別支援教育	具体的な特別支援教育の指導方法を示し、全教師が実践できる情報を共有する。
4	学力向上	学力の課題を表現力に焦点化し、教師が言語活動の授業を研究し、充実させる。
5	心の教育	認めたり、褒めたりすることで自信を付けさせる。また、家庭でも褒められる機会をつくる。
6	オリパラ教育 (体力向上)	オリパラ教育を取り入れるための指導計画の見直しや確認をする。
7	進路の実現	地域人材リストを活用し、幅広く様々な職業の方を発掘し登録する。

(3) 保護者アンケート結果からの成果と課題

①成果

- ・相手を思うやさしさにあふれた生徒の育成については90.0%と高く、人権教育の成果がうかがわれる。
- ・学校だより、学年だより、ホームページでの生徒の様子に関する情報については、85.7%と高く、情報発信が評価されている。
- ・達成感や成功体験の活動を通して自信を付けさせていることについては、83.7%と高く、学校行事等の取組が好評を得ていることがうかがわれる。
- ・部活動の取組については、80.5%と高く、保護者の理解を得られている。

②課題

- ・家庭学習の習慣については、53.5%とかなり低く、学習課題の在り方と家庭への啓発が必要である。
- ・朝読書での読書習慣については、61.0%と低く、読書が日常的に習慣化されていない。
- ・主体的に学ぶ学習意欲については、65.9%と低く、授業の在り方、指導方法の工夫が必要である。

(4) 生徒アンケート結果からの成果と課題

①成果

- ・日々の学習内容が理解できているかについては、96.4%とかなり高く、わかる授業が展開されている。
- ・思いやりをもって友達と接していることについては、94.6%とかなり高く、人権教育の成果が伺える。
- ・部活動に目的意識をもって取り組んでいるかについては、86.0%と高く、部活動に励んでいることがうかがえる。
- ・学習に対する意欲については、85.7%と高く、意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。
- ・自ら挨拶ができているかについては、80.4%と高く、挨拶の習慣化が伺える。

②課題

- ・家庭での学習習慣については、60.7%と低く、家庭学習の在り方を分析し、効果的な家庭学習を検討する必要がある。
- ・体力向上については、64.3%と低く、日常的な運動と体育での体力づくりが必要である。
- ・自分に自信をもつことについては、67.9%と低く、達成感や成功体験を味わわせ、自尊感情を育てることが必要である。
- ・読書をする習慣については、69.6%と低く、習慣化されない原因を分析し、効果的な読書の取組を検討する。

(5) 学校評価パネルディスカッション結果からの成果と課題

参加者：学年主任1名、担任1名、副担任1名、PTA会長1名、PTA副会長1名、栄養士1名、地域1名、生徒各学年1名、生徒会長

①成果

- ・学校行事に満足を感じている。特に異学年による運動会の取組（ソーラン節）、弁論発表会での表現力、四島体育大会での記録への挑戦については、やりがいや達成感を感じている。
- ・部活動が充実している。大会での優勝やコンテストの出場など、目標をもって一生懸命に取り組んでいる。
- ・神津島の良さとして、自然の美しさ、人々の優しさを感じている。
- ・挨拶をすると返してくれる。

②課題

- ・一日に家庭学習をしている生徒が少なく、家庭学習が習慣化されていない。
- ・就寝時間が12時近くになっている生徒が半分以上おり、睡眠時間の不足が伺える。
- ・学習時間の確保のため、行事をまとめて行うなどの工夫が必要。
- ・先生に対してや先輩、後輩の関係で、敬語をきちんと使えるようにする。
- ・校則があいまいなところがある。
- ・給食の残菜が小学校、高校と比べて多い。小学校の3.5倍。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成

	職名	所属等
1	評価委員	中学校PTA会長
2	評価委員	中学校PTA副会長
3	評価委員	都立神津高等学校長
4	評価委員	栄養士
5	評価委員	南駐在所長
6	評価委員	体育協会 会長
7	評価委員	民生委員

(2) 学校関係者評価委員会の主な活動

月日	会場	協議会内容等
平成29年6月30日	神津中学校 図書室	平成29年度教育方針、学校の状況、意見交換
平成29年9月26日	神津中学校 図書室	今後の学校経営、自己評価結果、学校関係者の意見
平成30年1月23日	神津中学校 図書室	今後の学校経営、自己評価結果、学校関係者の意見
平成30年2月22日	開発総合センター	評価委員会報告、今年度のまとめと来年度に向けて

(3) 学校関係者評価

A：よくできている B：だいたいできている C：あまりできていない D：まったくできていない

	経営目標	評価コメント	評価	
			28	29
1	人権教育	学校行事だけで人権教育を満たすことはできない。相手を傷つける言葉の指導をどのようにしたのか。また指導をしてどうなったのか。	B	B
2	連携教育	連携に目的をもたせ、何が身に付いたか、どこが成長したか、評価する。高校との授業公開の参加、生徒会活動、部活動の日程調整をする。	B	B
3	特別支援教育	インクルーシブ教育の実践、PDCAによる検証をする。数値の下がった部分については、原因や理由を明らかにする。	B	B
4	学力向上	学力調査結果からは、数学の数値が低い。評価テストの種類や回数を工夫する。アクティブ・ラーニングによる生徒の変容を検証する。弁論発表会はすばらしい。	B	B
5	心の教育	挨拶のできる生徒が多い。人権尊重教育推進交の研究授業がすばらしい。あの気持ちを高校進学後も忘れないでほしい。人権教育の研究発表が楽しみである。	B	B
6	オリパラ教育 (体力向上)	運動能力テストでは、男子の結果が都の平均より上である。生徒は体育の授業を楽しみにしている。	B	B
7	進路の実現	神津高校への進学する生徒が増えてきている。	B	B

3 今年度の学校経営計画の状況と来年度に向けての取組について

人権教育、連携教育、特別支援教育は学校経営の3本の柱であり、これらを充実させることで学力向上につなげてきた。人権教育は2年目の取組で研究発表会を実施し、その成果を地域に発信することができた。人権課題「障害者」を研究の柱とし、パラリンピアンとの触れ合いや障害者スポーツの体験などを通じて、生徒に思いやりの心が身に付いた。また、地域に対して、障害者との共生社会について考えるきっかけとなった。今後も引き続き人権教育を日常的に取り組み、人権意識、人権感覚を育んでいく。

連携教育は、高校との連携が活発になってきている。部活動などを中心に交流が広まり、結果として神津高校への進学率も増えてきている。今後は、生徒会の交流など広めていく。小学校とは、一部の教科において連携ができたが、連携そのものへの小中での必要性を理解することが必要である。今後は、連携コーディネータを中心として、中学校から積極的に働きかけていく。

特別支援教育については、特別支援部を立ち上げ、組織的に特別支援の教員の連携を図った。通常の教員との情報共有、連携については十分とはならなかった。同じ神津中としての所属学級であり、通常級、特別支援学級の教員が連携を強化していくよう、体制作り、意識改善を図っていく。

学力向上については、生徒の学習意欲が身に付いてきており、少しずつではあるが、学力調査等において数値的に上昇をしている。家庭学習にあまり取り組んでいない課題があるので、今後は、家庭学習も含めて、学力の定着に取り組んでいく。

心の教育については、道徳教育推進拠点校として、考える道徳、議論する道徳に取り組んできた。グループでの話し合い活動を取り入れるなど工夫を凝らし、生徒の考えに広がりをもたせた。評価の在り方も工夫し、ポートフォリオや通知表への記載の工夫をした。今後は、教材開発、指導方法の工夫を充実させていく。

オリンピック・パラリンピック教育については、オリパラ週間での取組や国旗調べ、夢・未来プロジェクトでのパラリンピアンとの交流などに取り組んできた。今後は2020東京大会に向けてTGGへの参加や英会話の取組など神津島から生徒がオリンピック・パラリンピックに関わっていく取組を推進していく。

進路の実現については、1年生から系統的に進路計画を作成し、実施してきている。神津高校への進学が増えてきており、地元での高校生活の充実、進学に向けての学習意欲が表れてきている。神津高校では離島留学での交流も増加傾向にあるので、様々な人たちとの交流を通じた進路指導の充実を図っていく。

今年度は人権教育という2年間の大きな柱の取組に一区切りがついた。来年度は新学習指導要領の趣旨を活かしながらカリキュラム・マネジメントを実施し、より効果的な教育目標の実現を図っていく。

4 学校評価第三者評価

(1) 日 時 平成30年3月5日(月) 午前10時35分から午後3時10分まで

(2) 会 場 神津島村立神津中学校校長室

(3) 講 師 大学教授

(4) 内 容

ア 学校経営状況の説明

イ 学校の報告(取組・成果・課題)ー教務部、生活指導部、進路指導部、保健指導部

① 学校評価システムについて(教務主任)

② 教務部 (教務主任)

教育課程実施報告。

③ 生活指導部 (生活指導主任)

校内外の生活、教育相談、安全・防災指導、いじめの指導について。

④ 研究について(代理で教務主任)

人尊校、道徳教育推進拠点校、伝統文化推進校、オリパラ教育重点校の取組について。

⑤ 保健指導部 (保健主任)

来室状況、けが、感染症、発育測定、歯科保健活動、関係機関との連携など、保健活動の報告。

(5) 指導・講評

・研究授業、研究発表での多忙感については、いたしかたない部分があるが、教員の学びの材料として生かしていく努力を怠らないように。

・日頃の取組を振り返り、丁寧に拾って発表することも大切(取り組んでいるわけなので)

・今後の研究の方向性としては、日々の授業を大切に、よい授業をするために、授業改善を進める努力をしていくとよい。子供の好奇心をかき立てることは、子供の向上心につながると言える。昨今は、中学校でも、学校全体で特定の教科で研究を行う学校も増えている。それは、次の四観点で授業を見合うため、研究対象が特定教科であっても、汎用力をもつ。教科の垣根を越えて見合うことが有効。

①課題設定(発問)が適切か:多様な考えを引き出す課題か。

②考える手立てとする情報量、資料は適切であったか。

③授業形式は、個別の考え⇒ペア、グループ、全体でのシェア⇒個別で考えるに即していたか。

④生徒の考え、発言を上手に拾って、引き出しながら授業が展開されていたか。

・教科横断的な学習についてはなかなか難しい側面もあるが、総合的な学習の時間において、既習事項をたくさん活用するような課題設定を行うなども大切である。

・小中連携も、できることからでよいが、同一教科、関連教科での既習事項、到達度などを共有したり、受け入れ側の中学も、小学校最高学年としての取組を十分に考慮したりするなどが大切。

・島という環境での現状(プライバシーを守り切れない部分など)の中で、何が本人のためになるのか、見極めが難しい場合もあるのが現状ではないか。